

## 美術分科会報告

京都 黒田康夫

- 分科会設定 大会1日目の午後・2日目の午前 2コマ
- 提出資料数 15本
- 参加者数 平均17～18人
- 司会進行 黒田康夫

【1日目 午後の部の発表資料 PM3:00～6:00】

### ■黒田さんの〈絵の具入門〉小学校簡略版 8ページ 神奈川 横山裕子

昨年ぼくが発表した美術の授業プラン〈絵の具入門〉の追試実践報告。時間と予算の関係で端折ったり、ポスターカラーを使わなかつた・・・といった具合で「端正な追試実践」とはいかなかったようですが、「男子の反応が良かった」、またその男子たちの感想文の一文「美術の世界に一歩足を踏み入れられた」という報告は今後のプランの改訂にとっても役立つ記録でした。ありがとうございました。

### ■木彫コースター，やってみた。小学校4・5・6年でもできちゃった

4ページ

福井 松口一巳

ぼくの〈木彫コースター〉の体験講座を受けてくださった後の「追試実践記録」。やはり4年生は「手や指の力が弱いので彫るのに苦労した」ということです。おしゃれな展示方法などの工夫がとても参考になります。松口さん次はぜひ6年生で〈木彫木箱〉にチャレンジしてくださいね！〈木彫コースター〉は〈木彫木箱〉の半分ほどの時間数で授業ができます。興味

のある方は、松口さんのように実践してみてください。よろしくお願いいたします。

■「自画像を描こう」紹介 2 ペ 愛知 高橋敦子

同僚の先生が実践された「デジタルカメラ」を使って自画像を描く授業案の紹介。「鼻筋・髪の毛の説明を丁寧にされているので絵の完成度が高くなっているんだなあ」と感じました。子どもたちもその出来栄えにきっと満足したことでしょう。今後さらに追試実践の報告がでてくるといいです。

■教材から見えるもの 美術の授業書〈木彫木箱〉の教材から考えた授業の根源 28 ペ

■常識的直観と論理の対峙その解決 美術の授業書における技術の伝え方 24 ペ

■コーヒーの香り ものをつくり上げる過程の意味 8 ペ

■創造の基盤とは 自分の〈好き〉を知り、堂々と模倣する大切さ 4 ペ

京都 黒田康夫

美術の授業書〈木彫木箱〉で使う「ジュエルボックス」が廃番に——これまで20年以上かけて開発してきた授業案を「そうですか廃番ですか」と簡単に諦められるわけがありません。メーカーの方とのやりとりで無事再生産してもらえることになりました。しかし「再生産してください」「はいわかりました」と簡単に事が運んだわけではありません。その過程を資料の核としながら、そこから教材について、授業について視野を広げ考察を深めました。あとの3本は簡単に紹介だけしました。

【2日目 午後の部の発表資料 AM9:10~12:00】

■雨の日 たのしいな 低学年にも簡単で見栄えのする図工作品 文化祭の出品作品にも 4 ペ 福井 山本恵理子

小学校1年生で取り組んだ授業の報告。長靴の型紙を用意する、色画用紙の色の選択や大きさの選定など、細かな部分に様々な工夫があり、とても

実戦的な報告でした。「1年生でぜひやりたい！」という声がでていました。

■イラスト画授業実践記 取り組みやすく楽しい、そして意外に奥深い  
5 ペ

■ダンディ先生のニコニコ教室日記 10 ペ 東京 小沢俊一

堀江晴美さん（千葉）の「イラスト画」の授業を中学3年生で実践した追試報告。色鉛筆を使用することによって短時間でコンパクトに授業ができることが時間数の少ない中学美術には役立つと思いました。しかし、僕自身、過去にポスターカラーを使ったイラスト画をやった経験から「子どもたちは髪の色をつけたい」「顔を描きたい」「アクセサリーをつけたい」「服を改造したい」などの要求がたくさん出はしないかな？と余計な心配をしてしまいました。もう一本は、おなじみ、そしてお約束の「ダンディ先生の四コママンガ」です。小沢さん来年もダンディ先生楽しみにしています！

■写真を見て描こう 「十六分割法」の紹介 17 ペ 群馬 森下知昭

デジタルカメラで子どもたちの活動する様子を撮影し、それをプリントしたものに方眼のマス目を描き、正確に模写する方法の紹介。授業の丁寧な手順の紹介だけに留まらず、美術史的に見た創造の考察や分割して描写する技法について調べたことなどが丁寧にまとめられたアカデミックな香りの漂う資料です。

■図工展の定番 ゆめのお城 8 ペ

■ゆめのおしろ 感想文 4 ペ

■キミコ方式 運動会のくつ 4 ペ 大阪 二宮聡介

低学年で取り組まれることの多い〈ゆめのお城〉の追試実践報告。図工の教案の提出では、どうしてもざっくりとした説明のものになりがちですが、二宮さんは、手順や指導のポイントを図示したりしながらまとめてくれているので、「やってみよう」と思った方々がとても取り組みやすいと思いました。こういう研究の積み上げが続くといいです。キミコ方式のスケッチに学んだ〈運動会のくつ〉は、「運動会のあとの授業参観、何か後ろに掲示をしたい・・・できれば運土王会の思い出がいい。さて、何を描くか??」

という二宮さん自身の「切羽詰まった？」状況から生まれた教案。「〈運動会ではいたくつ〉という着眼点がいい！」という声が出ていました。「靴」はスケッチの題材として中学校でもよくとりあげられます。とても絵になる題材だと思います。でも、どうして絵になるのか？その理由をぼくははっきりと説明できません。ぼくの宿題の一つです。

## ■〈和風ペン立て〉作りで、私がうった 手立て 8ペ

### ■カーボン紙を使って下絵の模写をする 6ペ 兵庫 東垣 淳

東垣さんは自分のサークルの夏の講座で、何年間もぼくの授業案に取り組んでくださいました。自身が図工の授業を担当するようになってからは、美術のプランや授業書の実践に取り組まれています。もともと東垣さんは熱心な仮説実験授業の実践者です。「何よりも子どもの自信と意欲を大切に」という西川浩司さんに多くを学んでこられました。ですからぼくは東垣さんの追試実践をとっても心強く思っています。美術の授業書開発は、手前みそにはなりますが、「かなりいい線まできているのではないか」と僕自身考えています。しかし、実際の授業での「運営法」といえば、「仮説実験授業に準ずる」ということは明記していますが、具体的方法は、ぼくが体験講座で伝えるのと、僕を書く資料で知っていただくしか術がありません。それだけに仮説実験授業を丁寧に実践されている方々の実践報告が本当に心強いのです。〈カーボン紙を使って〜〉は、図工に詳しい先輩教師からヒントを得た東垣さんの発案プラン資料です。「壁土と絵の具を混ぜてコルクボードに絵を描く」というのは、なかなか魅力的でした。盛り上げができるので「レリーフ（浮彫り）のような雰囲気もあります。追試実践の資料が出てくるといいです。

おわりに

ここ何年か「美術分科会」の司会を続けています。「追試実践の報告資料」が増えてきたことがうれしいです。以前はその場限りの発表資料が少なかつたからです。プランの発表がないと研究は始まりません。しかしプランばかりの発表では、研究的とは言えません。なぜなら「予想を立て、実際に実験して結果を確かめ、検証を加える」そのことによって始めて研究が動き出すと思うからです。来年の大会は「長崎県」です。「追試実践報告」というと厳めしく感じられるかもしれませんが、「授業をやってみて感じたこと」「子どもたちの評価と感想」をまとめただけでも研究の前進に役立つ立派な資料になります。みなさん資料を書いてみませんか。どうぞよろしくお願いします。

2016/07/30